

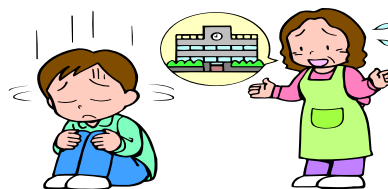


夏季休業前に行う不登校傾向が見られる児童生徒への対応

**新たな不登校を増やさない
取組の充実**

1学期もあと1週間。夏季休業に入る前に、気になる児童生徒の適応状況を確認し、今だからこそできる対応を確実に行いましょう。

管内長期欠席
児童生徒数
(4月～6月)
昨年同時期と比べ
9%増!



適応状況（不適応のサイン）の把握

- ・ 生活の様子に変化が見られる。
 - ・ 成績が急に低下する。
 - ・ 「遅刻・早退が多くなる」「急に反抗的になる、しゃべらなくなる」等の言動の急変化が見られる。
- ・ 心理アンケートからストレス過多の状況が見られる。

【Q-Uでは】「学校に行きたくない・クラスにいたくない」「休み時間など一人である」等の項目に「そう思う」と回答している。
【アセスでは】「生活満足感」「友人サポート」「非侵害的關係」の適応状況を示す数値が40以下である。

不登校になる可能性が考えられます

夏季休業前・休業中の対応

- ・ 個別面談を行い、友だちや学習、保護者等に関する心配事や不安を受け止め、安心感を与える。
- ・ 夏季休業中は、ストレス要因に触れる活動を避け、心身の休養をとらせる。
- ・ 保護者と協力して、生活に乱れ（昼夜逆転など）が起こらないよう、起床や就寝、学習時間等の生活リズムを整える。